

甲状腺外科草子 31

置かれた場所：ロバート・フリン

杉野 圭三

生涯において尊敬すべき師に出会えることは大いなる幸運であり、その後の人生に大きな影響を与える。

高校卒業後 50 年を機会に、英語やバスケットボール部で大変御世話になった、故フリン神父の足跡を辿ることとする。

生誕から高校卒業まで

ロバート・フリンは 1920 年、ニューヨークで生まれた。アイルランド系移民の孫であり、9 人兄弟の 2 番目であった。

熱心なカトリック教徒の過程に育ち、イエズス会のカニシウスハイスクールに 2 番の成績で入学し、奨学金を獲得している。意外なことに、いたずらが大好きな生徒で 1 年生の時には教室から追い出され、よく校長先生の所に行かされたそうである。この時に、神学生との交流でイエズス会に入ることを決意した。

家から通っていた教会の司祭はその時「いつまでも少年であれ」との言葉を贈っている（いつまでも明るく楽しい生活をするように！という意味）



フリン兄弟（後列右端） ハイスクール卒業（1937）

神父への道

神父になるまでには 15 年間の過程が必要とされる（知りませんでした！）。

第一修練：1 年間、セントアンドリュースハドソン校、イエズス会の歴史、精神、

生活、キリスト教について

第二修練：1 年間、同上

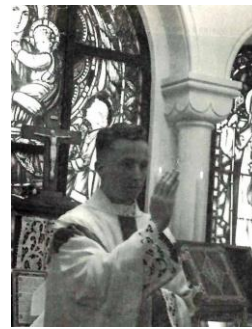
その後、誓願を立てる。

文学、語学研修：2 年間、ラテン語、ギリシャ語（イリアス、ユリシーズ読破！）、ドイツ語、フランス語、英語、歴史など
哲学、理科研修：セントルイス大学、3 年間

高校での教師：セントピータースハイスクール、3 年間

神学の勉強：4 年間、ルーヴェン大学（ベルギー）（3 年目に司祭に叙階）

第三修練：最後の 1 年間で最終的に精神面を深める。



セントルイス大学時代 ルーヴェン大学時代

日本への赴任

第三修練中に日本での布教活動を決意し、総長に希望を伝え辞令を受け、1952 年 11 月に横須賀に到着し 1 年間研修を受け、1954 年六甲学院に赴任された。

日本に来るまで、かくも過酷な哲学、神学、多数の語学の勉強と修練の時代があったことを知り、改めて深く感じる。

しかし、師が勉強された多数の言語の中で、本人も言われていたように、恐らく日本語が最も苦手だったのではないかと推察される。

参考文献

ロバート・フリン—あるカトリック神父の足跡—

ロバート・フリン出版会、2002.

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022 年 5 月 25 日